

## 利根町教育委員会定例会会議録

平成 29 年 8 月 31 日 午前 9 時 00 分開会

### 1. 出席委員

教 育 長	杉 山 英 彦 君
教育長職務代理者	武 谷 昭 子 君
委 員	木 村 矩 男 君
委 員	佐 藤 忠 信 君
委 員	村 上 盛 一 君

### 1. 欠席委員

な し

### 1. 出席事務局職員

学校教育課長	寺 田 寛 君
指導室長	直 井 由 貴 君
生涯学習課長	野 田 文 雄 君
学校教育課長補佐	大 越 克 典 君
学校教育課長補佐	河 村 明 君
学校教育課係長	布 袋 哲 朗 君

### 1. 議事日程

#### 議 事 日 程

平成 29 年 8 月 31 日 (木曜日)

午前 9 時 00 分開会

- |       |          |  |
|-------|----------|--|
| 日程第 1 | 報告第 19 号 | 利根町教育委員会後援名義の使用承認について (29 年 7 月分)                |
| 日程第 2 | 議案第 18 号 | 平成 29 年度利根町一般会計補正予算 (第 3 号) 教育関係予算<br>の意見の申出について |
|       | 議案第 19 号 | 平成 28 年度利根町一般会計歳入歳出決算教育関係決算の意見<br>の申出について        |
|       | 議案第 20 号 | 平成 28 年度教育委員会事務の点検評価報告書 (案) について                 |
| 日程第 3 | その他      | 教育課程特例校指定申請に係る実施計画書等について                         |

1. 本日の会議に付した事件

- 日程第1 報告第19号 利根町教育委員会後援名義の使用承認について（29年7月分）
- 日程第2 議案第18号 平成29年度利根町一般会計補正予算（第3号）教育関係予算の意見の申出について
- 議案第19号 平成28年度利根町一般会計歳入歳出決算教育関係決算の意見の申出について
- 議案第20号 平成28年度教育委員会事務の点検評価報告書（案）について
- 日程第3 その他 教育課程特例校指定申請に係る実施計画書等について

---

午前9時00分開会

○教育長（杉山英彦君） 改めまして、おはようございます。

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

ただいまより、平成29年8月の教育委員会定例会を開会いたします。

きょうご審議いただく議案は、専決処分を含む報告が1件、議案3件の計4件でございます。

議題に入ります前に、議案第18号 平成29年度利根町一般会計補正予算（第3号）教育関係予算の意見の申出について及び議案第19号 平成29年度利根町一般会計歳入歳出決算教育関係決算の意見の申出につきましては、平成29年第3回の議会定例会で審査を予定している案件なので、町長の公正、円滑な町政執行を確保する観点から非公開にしたいと思っておりますが、いかがですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○教育長（杉山英彦君） ただいまご承認いただきましたので、議案第18号及び議案第19号につきましては、非公開といたします。

---

○教育長（杉山英彦君） それでは、日程第1 報告第19号 利根町教育委員会後援名義の使用承認について（29年7月分）を議題といたします。

担当課長に説明を求めます。

○学校教育課長（寺田 寛君） それでは、報告第19号 利根町教育委員会後援名義の使用承認の平成29年7月分につきまして、ご説明申し上げます。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条第3項及び利根町教育委員会事務委任規則第4条第2項の規定により報告するもので、2件の申請があり、承認をいたしました。

裏面にあります別紙をごらんください。

まず1件目ですが、公益財団法人茨城県体育協会が、第34回茨城県民駅伝競争大会を12月9日（土）に、笠松運動公園内周回コースにおきまして開催されます。内容としましては、3.17キロを5区間走る職域対抗の部、それからクラブ対抗の部と、3.17キロを7区間走る市町村対抗の部の3部門で争われ、広く県民にスポーツに親しむ機会を与え、心身とも

に健全で明朗な県民の育成に努めるとともに、参加者相互の親睦を図り、本県のスポーツの振興と競技力の向上に寄与することを目的に開催するものでございます。

次に2件目ですが、利根町体育協会卓球部が第37回利根町卓球大会を10月22日(日)に龍ヶ崎総合体育館「たつのこアリーナ」において開催いたします。内容としましては、利根町在住・在勤者、利根町卓球クラブ所属者、近隣交流卓球クラブ所属者などを対象に、近隣の卓球愛好家との親睦を図るとともに、卓球スポーツ活動の促進と卓球技術レベルの向上に寄与することを目的に開催するものでございます。

報告第19号の説明は以上でございます。

○教育長(杉山英彦君) 説明が終わりました。

ご意見、ご質問ございますか。

○委員(佐藤忠信君) この卓球大会の申請者、体育協会卓球部というのは、教育委員会に所属している団体だと思うんですが、本当の主催は、町主催ということですか。

○学校教育課長(寺田 寛君) 町ではなく、あくまでも利根町体育協会に所属している団体、卓球部が主催している大会になります。

○委員(佐藤忠信君) わかりました。卓球部が主催だから、後援の申請をしているんですね。

○学校教育課長(寺田 寛君) そういうことになります。

○教育長(杉山英彦君) ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○教育長(杉山英彦君) よろしいですか。

では、報告第19号 利根町教育委員会後援名義の使用承認について(29年7月分)は、原案のとおり承認いたします。

---

○教育長(杉山英彦君) 続きまして、日程第2 議案第18号 平成29年度利根町一般会計補正予算(第3号)教育関係予算の意見の申出についてを議題といたします。

担当課長に説明を求めます。

〔「非公開」により省略〕

○教育長(杉山英彦君) では、議案第18号 平成29年度利根町一般会計補正予算(第3号)教育関係予算の意見の申出につきましては、原案のとおり同意することといたします。

---

○教育長(杉山英彦君) 続きまして、議案第19号 平成29年度利根町一般会計歳入歳出決算教育関係決算の意見の申出についてを議題といたします。

担当課長の説明を求めます。

〔「非公開」により省略〕

では、議案第 19 号 平成 28 年度利根町一般会計歳入歳出決算教育関係予算の意見の申出につきましては、原案のとおり同意することといたします。

○教育長（杉山英彦君） 続きまして、議案第 20 号 平成 28 年度教育委員会事務の点検評価報告書（案）についてを議題といたします。

担当課長から説明を求めます。

○学校教育課長（寺田 寛君） それでは、議案第 20 号 平成 28 年度教育委員会事務の点検評価報告書（案）について、ご説明をいたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項及び利根町教育委員会事務委任規則第 2 条第 6 号の規定により、提案するものでございます。

平成 28 年度分の教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価に当たり客観性を確保するため、学識経験を有する点検評価員 2 名からご意見をいただいております。

平成 29 年 7 月 4 日、8 月 2 日及び 23 日の 3 回にわたりまして会合を開催し、報告書の内容と前年度との比較等を説明いたしまして、ご意見をいただいております。来年度の点検評価報告書の作成につきましては、これらのご意見を参考に改善をしてみたいと考えております。

平成 28 年度教育委員会事務の点検評価報告書（案）につきましては、本日の教育委員会でご承認いただきましたら、町長及び議長のほうに提出する予定でございます。

点検報告書（案）の内容につきましては、布袋係長よりご説明いたしますのでよろしくお願ひします。

○学校教育課係長（布袋哲朗君） それでは、私のほうからご説明させていただきます。

まず、8 月初旬に教育委員の方々のほうに、点検報告書とその変更点というのをお渡ししておりますので、この変更点のほうで大きく変わったものだけご説明したいと思います。事業につきましては、ほぼ毎年同じですので、大きく変わっているところだけをご説明したいと思います。

4 ページをお開き願ひします。先ほどの決算のほうの説明と重複いたしますが、小学校建設事業のところ、布川小学校大規模改造工事（2 期工事）に変更となっております。

また、その上になるんですけれども、教育用パソコン 63 台、これらのほうを購入したということで、追加になっております。

8 ページをお願いいたします。ここからは新規事業についてご説明いたします。小中学校非常勤講師配置事業ということで、各小中学校のほうに算数・数学に特化した教科指導を行うために 2 名を配置しております。

また、その下の東京藝術大学との交流事業ということで、絵画の制作の支援ということで、

学生やOBを派遣していただく事業を行いました。

9ページになるんですけれども、教育相談事業ということで、特別支援教育相談員とスクールソーシャルワーカーを新たに配置して教育相談を行っております。

その下の適応指導教室設置事業ということで、利根町図書館のほうに平成28年度から適応指導教室を開校しまして、不登校の児童生徒の学習支援、学校復帰に向けた支援を行っております。

続きまして、13ページになります。こちらのほうの学校給食の充実というところでは、地場産、地産地消の取り組みとしまして、地元食材提供事業助成金ということで、月に1回、地元食材を使った給食の食材費を学校のほうに助成をしております。

大きな変更点及び新規事業は以上になるんですけれども、この比較、変更点を見ていただきますと、今回、点検報告書を作成する前に各課に、前年度点検評価員の方からいろいろなご指摘をいただいておりますので、それを現状の課題とか今後の取り組みの欄に反映していただくようお願いをいたしました。また、毎年同じ課題、取り組みになっていないか再度見直しをしてほしいということで依頼をかけまして、かなりその部分については改善していただき、表現など大きく変わって、昨年度よりわかりやすくなっていると思います。

先ほど学校教育課長のほうからも説明あったんですけれども、この点検評価員の会合を3回開きまして、報告書の中身について、まず説明をさせていただきました。それを一回持ち帰っていただきまして、8月23日に第3回目の会合を開きまして、ご質問やいろいろな意見をいただいております。

議案の42ページをお願いいたします。

全体に関する意見のほうを読ませさせていただきます。

「全項目の評価欄を前年対比で見ると、効率性及び達成度の評価が上がっており、運営全般がよい方向で実施されていること、また、昨年度の点検評価報告書の意見に対し、積極的に改善されるなど、非常に評価できる。」という評価をいただいております。

一方、その下の黒い丸印なんですけど、この黒い丸印のほうは改善を要するご意見となっております。

「評価欄においてどのような取り組みに効果があり、評価につながったなど、具体的にわかるような表現を用いることにより、次年度以降の事務改善につながると思われるので、来年度以降は表現方法等検討していただきたい。」

また、「新規事業については、1年目の評価を厳正に行い、成果や課題を明確にし、次年度に改善が加えられるよう他の事業以上に意識をして行っていただきたい。」というようなご指摘をいただいております。

各施策に関する意見につきましては、後で見いただければと思います。簡単ではございますが、説明は以上です。よろしくをお願いいたします。

○教育長（杉山英彦君） 説明が終わりました。

ご意見、ご質問ありますか。

○委員（村上盛一君） この評価、自己評価というのは、それぞれの学校やそれぞれの課によって視点が違うと思うんですけども、何を通してその評価していくかというところの視点というのは、結構難しく、評価の視点によってどうにでも解釈できるのかなと思います。職員に、何を通して見取ったらいいのかということを考えさせるということが、やっぱりその翌年につながっていくのかなと思います。

ですから、割合、漠然とした形で成果とか課題とか出てきて、これはもう主観的というか、何を通してこの評価をしたのかということのほうに、今後は、もう少し取り組んでいく必要があると思います。

確かに、柳田國男記念館も人数的には、利用されている形になってはいますが、その人数の内訳だとか、あるいはその中身、内容について、どのような事業が行われて、それに対して参加者がどういう反応をして、どういう意見とか考えとか感想を持って帰られたのかというのは、柳田國男記念館に関する大きな成果とか課題だということだと思うんです。単にこう、人数だけ見てしまうと、その数字だけを見てしまうと、ちょっとどうなのかなというふうに感じました。

そんなこと毎年はできないので、3年に1回ぐらい、特にその重点事項、あるいは新規事業だけでも、調べてみるとか、今、説明があった新規事業もそうなんですけれども、特に教育委員会として、あるいは町当局が重点としていることについて、その年その年の取り組みについて、一歩踏み込んでいく必要があるのかなと、私ちょっと感じました。今年は非常に相違点が出ているのでいいなというふうに思ったので、さらにこれを深めていくためのそういうことも考えていくということが必要かなと思ったんですけども。難しい取り組みではあるんですけどもね。

○学校教育課係長（布袋哲朗君） 職員にとっても評価するのが非常に難しく、毎年同じような報告書になってしまうので、毎年、点検評価報告書をつくることによって、職員がどんな問題点があるのかという意識づけをするために、まず今回、点検評価員のご指摘に対して取り組みや課題について表現を見直すことをお願いし、反映していただきました。

若干ですけども、現状の課題のところ、いままでと違った課題や取り組みを書いていただいている課もありますので、その辺につきましても、もうちょっと長い目で見ていただければと思います。少しずつ職員の意識が変わって、基本的にこの評価が全部達成されれば一番いいんですけども、見直しして改善していくというのが目的なので、その意味でもいろいろと今後ご意見をいただけたらと思います。

○委員（村上盛一君） この新規事業の東京藝術大学との交流事業は、回数が少ないけれども、費用を見ると、結構な金額になると思うんですが、それに見合うだけの成果とかそういうことを何で見取るのか、どういうふうに判断するのか。子ども達はどういうふうに関心を持ったか、あるいは先生方はどう感じたか。それから、成果としてその子どもの作品にどんな変化が出てきたのか、そういったところまで踏み込むと、それが本当に今後もそれだけの費用をかけてやるほどの事業なのかどうかという判断材料になると思います。

これだけ利根町に予算がない非常に厳しい状況の中で、あれもこれもと手を出すわけにいかないで、そういう評価が必要となってくると感じております。

○学校教育課係長（布袋哲朗君） その点につきましては、点検評価員のご指摘にもあるように、新規事業については、1年目の評価を厳正に行い成果や課題を明確にし、次年度以降に改善が加えられるよう他の事業以上に意識して評価をしていただきたいというご指摘いただいておりますので、来年度以降、特に意識して作成していきたいと思っております。

○委員（村上盛一君） 点検評価報告書といったらこういう形でいいんでしょうけれども、実際にその交流事業の中身、そういったものを本当に今後継続していくのがどうかということ考えたときには、一歩踏み込んだ現場とかに依頼して、その評価を入れていく必要があるかもしれないですね。

○教育長（杉山英彦君） よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、議案第20号 平成28年度教育委員会事務の点検評価報告書（案）については、原案のとおり承認いたします。

---

○教育長（杉山英彦君） 続きまして、日程第3、その他のところで、教育課程特例校の指定申請に係る実施計画書等について、説明してもらいます。

○指導室長（直井由貴君） それでは、お手元の資料の中に、教育課程特例法指定申請書というのがあるかと思いますが、こちらをもとに説明をさせていただきたいと思います。1枚開いていただきますと、3番の(1)概要でございますが、小学校1年生から外国語活動、いわゆる英語を週に1回ずつ教育課程を編成できるように文部科学省のほうに申請したという内容になります。俗にいう英語特区ということになります。

2番の特別の教育課程を編成・実施する学校一覧にありますように、小学校3校、すべての小学校で実施するということになります。

3番の(2)なんですが、特別の教育課程の内容ということで、小学校1年生から4年生の4学年に新教科として外国語活動、英語を新設するということになります。

従来ですと、外国語活動は小学校1、2年生は行いません。ちょうど移行期といって今、新学習指導要領の後期が来年から始まりますので、3、4年生は、年間で15時間実施するようになります。

ところが、利根町は特色としまして特区を組みますので、1年生から4年生まで週に1回、年間35回実施できるように申請しました。

どのように編成するかといいますと、1年生、2年生は、生活科という授業がありまして、いわゆる社会科や理科に付随するものです。その生活科の時数を削減しまして、この外国語活動、新教科に充てます。

3、4年生は、総合的な学習の時間という探求的な学習をする時間があるんですが、こちらを削減して新教科に充てるという内容になっています。

申請の理由につきましては、(3)番にありまして、簡単に言いますと、これから国際化がより進んでいくということが挙げられているのと、若いうちから、早期から外国語活動、英語に慣れ親しむことが非常に英語を習得する上ではいいんじゃないかということ、利根町の目指す児童生徒の育成、知・得・体のバランスのとれた子どもたちを育てる、将来、よりよく生きる子どもたちという目的から、英語を特化するということで考えてみましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

お開きいただいた右側につきましては、その生活科の時間のどこを新教科の外国語活動に充てるか、総合的な学習の時間のどこを削って、外国語学習に充てるという細かいことが書いてあります。こちらのほうにつきましては、2学期、教務主任会を通しまして、教育課程編成会議を持ち、来年度の年間計画を変更できるように削減した教科の計画の策定、外国語活動の策定ということで進めていきたいと思ひます。

もう1枚めくっていただきますと、これを何年間行うのかということですが、そこに書いてありますように、開始日は、来年の平成30年4月1日付で行う方向でいます。

取り組みの期間は、平成30年4月1日から平成32年3月31日までの2年間を特区ということで申請をしております。

最後のページをごらんください。こちらが利根町の小学校の教育課程、時数表になります。

1年生から4年生のところで色が濃くなっているところが、特区を申請することで教育課程を変更する場所ということになります。

1年生、2年生の生活科は、それぞれマイナス34時間、マイナス35時間にしていますので、1年生の生活科は1年間で68時間、2年生が70時間というふうになります。そのかわりに、一番右側にある外国語活動というのを新設しましたので、それぞれプラス34時間、プラス35時間となります。

小学校1年生は、年間、国語から外国語活動まで850時間、小学校2年生は910時間、最低でも行うことになっております。実際は35週以上やっていますので、もっと時数が上がっていますが、最低の授業時間の規定となっております。

同じように3年生、4年生のほうも、総合的な学習の時間を減らしましたので、35時間ずつになります。通常の授業時数15+特区申請分の外国語活動20で、年間35ということになります。

5、6年生については変わりませんが、今年度、総合的な学習の時間というのは5、6年生、70時間あったんですが、来年から、ちょうど移行期なので、15時間を外国語活動に持っていく、総合的な学習時間が55時間、外国語活動が50時間ということになります。

ただ、生活科と総合的な学習の時間が減るので、こちらのほうも大切な教科ではありますので、その辺は利根町の教育課程編成委員会、教務主任との打ち合わせを踏まえながら進めていこうと考えています。

以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○教育長(杉山英彦君) 今、説明が終わりましたが、何かご意見、ご質問ございますか。

○委員（村上盛一君） 特に授業数の確保という点では、きちっとした教科で位置づけることが大切と思うんです。しかも ALT も確保していますよね。

○指導室長（直井由貴君） 利根町は、ALT が 4 名、各学校 1 名がいるので、この特例校を申請しても必ず学級担任と ALT がつくので、非常に充実した授業展開ができるということから申請したという経緯も確かにございます。

○委員（村上盛一君） よく例として、朝の時間とか休み時間とかの 10 分とか 15 分とかを積み上げてきて、最終的に、夏休みの時間も授業時間にしてということがありますけれども、それではやっぱり定着しないですよ。だから、利根町の実態教育環境と考えると、適切な対応だと思うんです。

ただ、指導計画をつくるときに、横断的な形をつくるしかないんじゃないですかね。英語だけ切り離すわけにいかないの、生活科の時間を減らしてとか、そういう生活に関連するような事項もこれに組み入れながらやっていかなきゃいけないので、そこは創意工夫ということで、現場の先生方にとっても、やりがいがあるんじゃないんですかね。それででき上がったものは、本当に利根町の特徴ある特区の戦略なのかなと思って話を聞きしました。

○指導室長（直井由貴君） おっしゃるとおりで、生活科で身近な生物、例えばザリガニを取りに行くというなんていう場合にも、それを英語で言いましょうとか、動物を英語で言いましょうとか、生活科に絡めて英語を使いながらというふうにやることもできるという話ですので、そんなことも取り入れながら進めていければと思います。

○教育長（杉山英彦君） 今言われたように、いろいろと特色のある取り組みを働きかけてきているんですけども、成果が出てからということが我々の課題なんですよ。点数だけでは切り切れない部分もありますので、とにかくやれることはやる。その上で、結果がどうあれ、やっていくという前向きに捉えて進んでいきたいなというふうには考えております。

○委員（佐藤忠信君） ついに来たかという感じですけどもね。僕は、これは前から反対していたことなので。国語がきちっとできないうちに、英語は早いような気がしているんですが、国の方針もあるでしょうから、これは、教育長が今言われたように、工夫して取り組んでいただけたらいいのかなと期待しています。さらに国語力の強化をお願いしたいと思います。

○委員（村上盛一君） 現場をバックアップするような態勢が教育委員会に求められますよね。道徳の教科だって小学校が平成 30 年、中学校が平成 31 年ですよ。こういったものが重なってきて、これを学校とか、教職員一人一人に、ただ、やりなさいという形で指示するだけでは、パンクしますよね。地域の人材とかそういったものも、現場に何とかして入ってもらっては思うんですけども。小中連携というところの部分ではかなり入ってきますよね。

○指導室長（直井由貴君） そうですね。小中連携の強化をするには、もういいチャンス、機会でもあるので、中学校の英語の先生とかも大いに入ってもらったりすることで連携を

深めて、結局9年間を見通したカリキュラムになっていくので、そういう部分も含めて、連携強化を図ることができるのかなというふうに考えております。

○委員（佐藤忠信君） 利根町自体は学校数少ないですから。もう本当に町全体で一つの学校のような意識でいいんじゃないんでしょうかね。他の市町村では、なかなか難しいでしょうけど。

○教育長（杉山英彦君） よろしいですか。

そのほかの点で何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○教育長（杉山英彦君） それでは、平成29年度8月の教育委員会定例会を閉会といたします。

午前10時25分閉会